

湯沢の会社、十文字中3年へ「五角」の箸で「合格」祈願



合格箸を手にする十文字中の生徒

湯沢市の建設会社「アベ建」(阿部俊介社長)が、高校受験を控えた横手市の十文字中学校の3年生78人に、合格祈願の箸を贈った。阿部社長が横手市十文字町に在住している縁。県産ブナを素材とし、「ごうかく」にかけた五角形の箸で「受験に合格し、ブナ

のように大きく成長してもらいたい」としている。

同社は住宅建築などを手がける。2017年度に箸の生産事業を立ち上げたのをきっかけに、毎年同校の受験生に箸を贈っている。

阿部社長によると、木製の箸は金属製やプラスチック製と比べ滑りにくく、食べ物をつかみやすいという。今月20日に受験生に渡された。家で使っているという佐藤小春さんは「五角形の箸は珍しい。滑らずに使いやすいので、自分も受験に滑らないと思う」、押切爽羽さんは「地域の方からサポートを受けられてうれしい。受験合格に向け活が入った」と笑顔を見せた。

小田嶋教頭は「心遣いがありがたい。地域の思いが生徒に伝わってくれたらいい」と話した。(梅川正城)

(令和8年2月26日(木)秋田さきがけ新聞から一部抜粋)